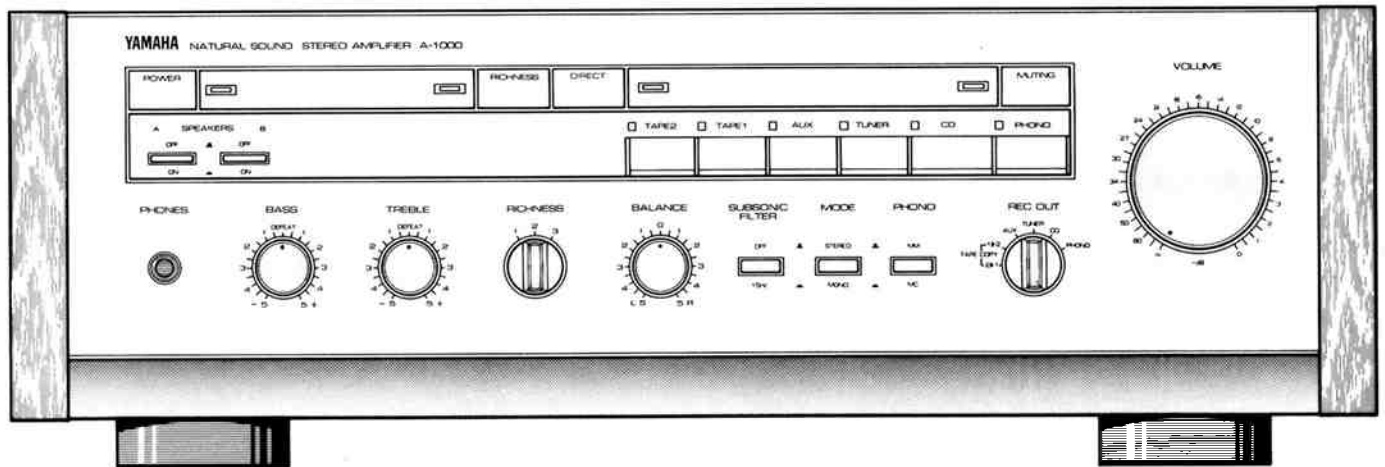




# NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

# A-1000

## 取扱説明書



### 目次

特長.....	1	操作のしかた.....	7 / 8
ご使用になる前に次のことにご注意ください.....	2	ブロックダイアグラム.....	9
接続図.....	3	参考仕様.....	9
接続上のご注意.....	4	故障と思われるときには.....	10
各部の名称と機能.....	5 / 6	サービスのご依頼について.....	11

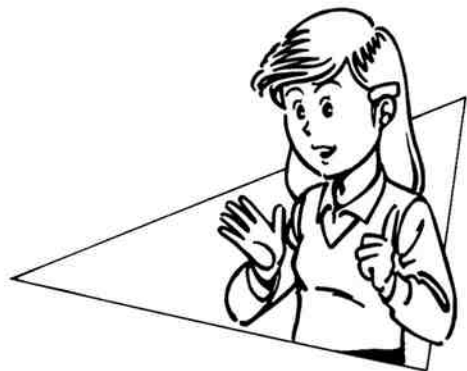
ご使用の前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオアンプ A-1000 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

A-1000の優れた性能を充分に発揮させ、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

## ■特長

- 新設計のDual Amp純A級アンプ方式によって、120 W +120 W (6 Ω, 20Hz~20kHz)のハイパワーを0.003%の低歪率で実現しました。
- 各アンプを交流的に電源から遮断する、プラスチックケミコンによるPure Current Damを搭載し電源を強化。電源電流の変化やアースの電流変化を徹底的に抑えます。
- 47,000 μF × 2 + 22,000 μF × 2の大容量、マルチ箔マルチ端子の音質重視型電解コンデンサーによる強力電源部搭載。低インピーダンス負荷でも余裕ある実力を発揮します。
- DCサーボリアルタイム・イコライザーアンプ採用。入力信号にハイスピードで対応し、かつMCカートリッジをダイレクトに使用できます。
- ダブルアクションやテープのダビングが可能なREC OUTセレクターや、トーンコントロールをパスするDIRECTスイッチ、グラフィックイコライザー等の接続に便利なアクセサリ端子、さらにオーディオミュートスイッチなど機能面でも充実しています。
- 使用するスピーカーの低域周波数特性をオクターブ下まで伸ばすことのできるRICHNESSスイッチの採用で、より自然なサウンドが楽しめます。
- ソフトな操作性を備えたスイッチやコントロールツマミは、フロントパネルにバランスよくマッチして、ヤマハ独自の優美なデザインを造りだしております。



# ご使用になる前に次のことにご注意ください

## 設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。ご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)、または温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)では製品の正常な機能を維持できない場合がありますので避けてください。
- 湿度の多い場所(湿度90%以上)では金属部品にサビを生じたり故障の原因となります。
- ホコリの多い場所ではスイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になり性能をそこなうことがあります。
- 結露が発生した場合、一時的に正常動作をしないことがあります。
- その他、トランスやモーターの近くでの設置は誘導ハムをひろう原因となりますので、離して設置してください。また、振動の多い場所も避けてください。

## セットのお手入れには

セットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

## 取り扱いはていねいに

スイッチやツマミ、キャビネットなどに無理な力を加えることは避けてください。

## 電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。

◆本機は、国内電源AC100V±10V、50/60Hzの範囲でお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できかねます。

## 落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

## 予備電源コンセント

本機リアパネルの電源コンセントの容量は、スイッチ連動側2個は合計で200Wまで、スイッチ非連動側1個は200Wまでです。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の機器は絶対に接続しないでください。

## 水に濡れたら

万一雨が降ったり、花びんなどの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。この状態で電源を入れた場合、感電の恐れもあり危険です。また故障の原因となりますのでご注意ください。

## ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

## セットの移動

セットを移動する場合は、接続コードのショートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他の機器との接続コードをはずしてから動かしてください。

## 入出力コードを抜き差しする場合

クリックノイズによるスピーカーの破損を防止するため、接続コードの抜き差しは、本機の電源スイッチを切ってから行なってください。

## セット上面の通風孔をふさがない

放熱を防げないため、セット上面の通風孔の上にビニールの敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。

## 保証書の手続きを

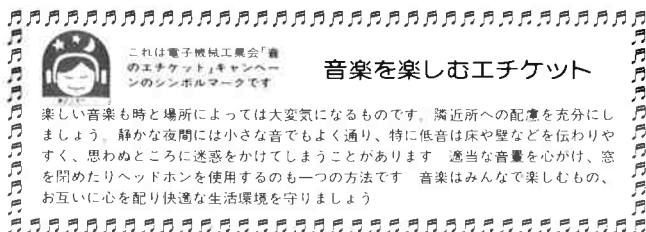

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。

## もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず10ページの「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。

## 保管してください

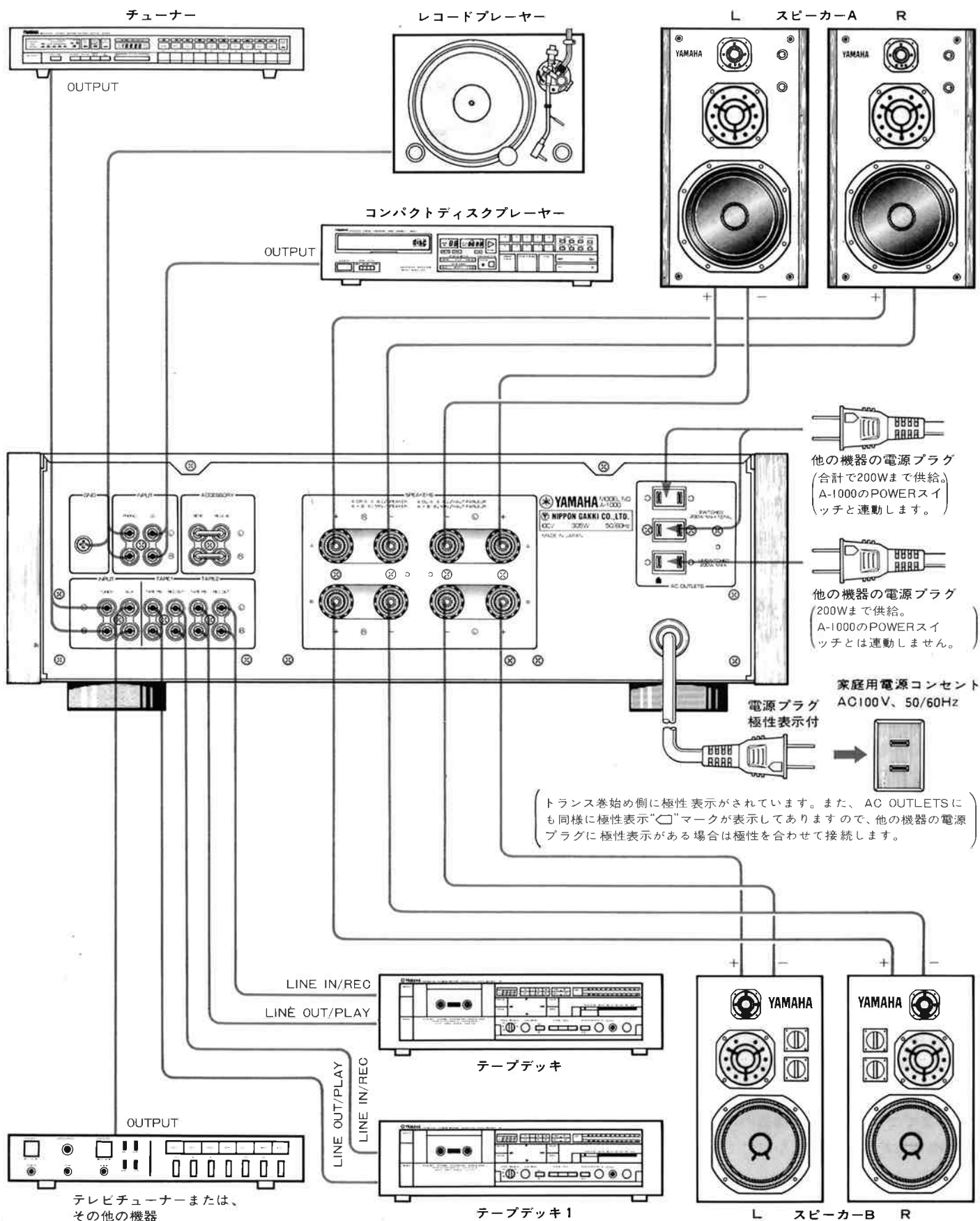
この取扱説明書をお読みになりました後も、保証書と共に大切に保管してください。

  これは電子機械工業会「音のエチケット」キヤンペーンのシンボルマークです **音楽を楽しむエチケット**

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を開めたりヘッドホンを使用するのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう

# 接続図

※接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。



# 接続上のご注意

## ■スピーカーシステムの接続

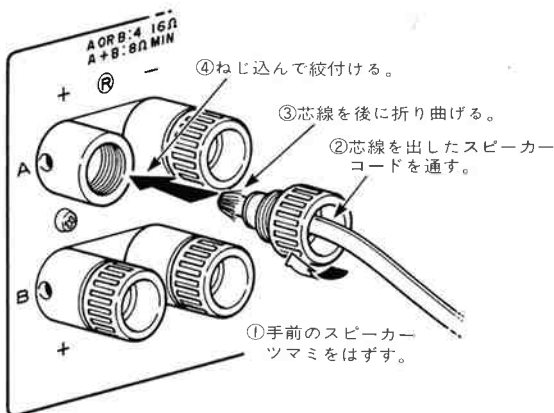
SPEAKERS端子AのⓇ側に右側のスピーカーシステムを、①側には左側のスピーカーシステムを極性(+、-)を確認して接続してください。

SPEAKERS端子Bも同様にもう一組のスピーカーシステムを接続することができます。

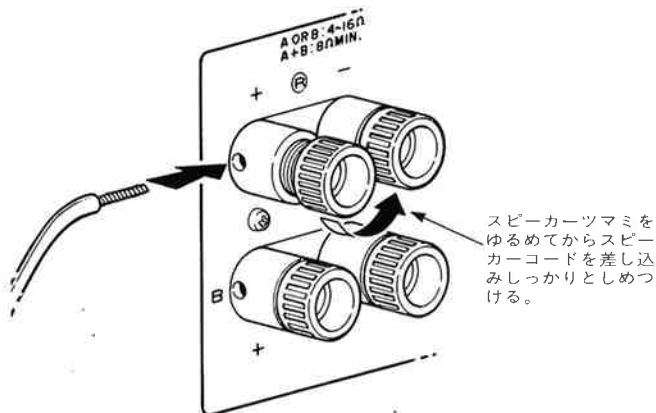
※極性が合っていない場合、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となってしまいますのでご注意ください。

※接続するスピーカーは指定のインピーダンスの範囲内のものをご使用ください。スピーカーを並列に接続して使用する場合、スピーカーの合成インピーダンスが指定範囲を下まわらないように特にご注意ください。

※AまたはB端子だけに接続する場合は4~16Ω。A・B両方の端子に接続されたスピーカーシステムを同時に使用する場合は、A・Bそれぞれのスピーカーシステムが8Ω以上のものをご使用ください。



または……



ご注意：A-1000のスピーカー端子“-”は、アースと同電位になっていません。他の機器のアースには接続しないよう注意してください。

## ■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に接続し、アース線をGND端子に接続してください。

## ■CD、チューナー、その他のオーディオ機器の接続

コンパクトディスクプレーヤー(CD)はCD端子へ、FM/AMチューナーはTUNER端子へ、その他のオーディオ機器は、AUX端子へそれぞれ接続してください。

## ■テープデッキの接続

本機では、TAPE 1、TAPE 2端子にテープデッキの接続ができます。

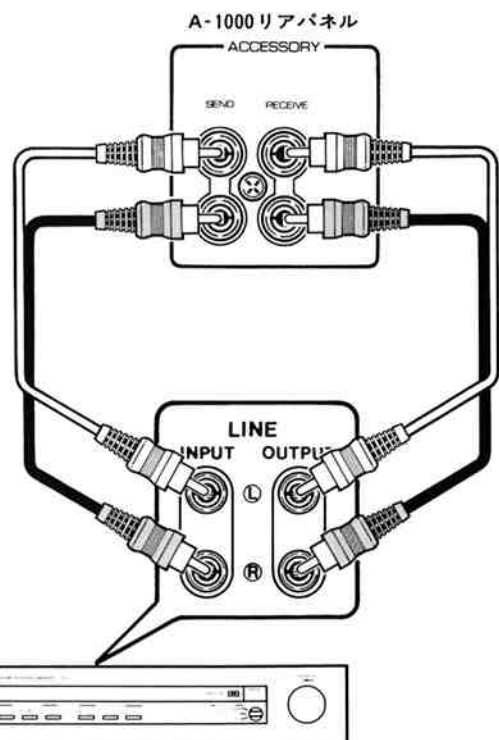
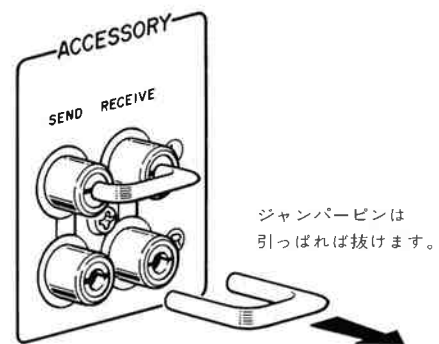
TAPE PB端子とテープデッキのLINE OUT端子、REC OUT端子とテープデッキのLINE IN端子をそれぞれ接続してください。

## ■ACCESSORY端子の使用

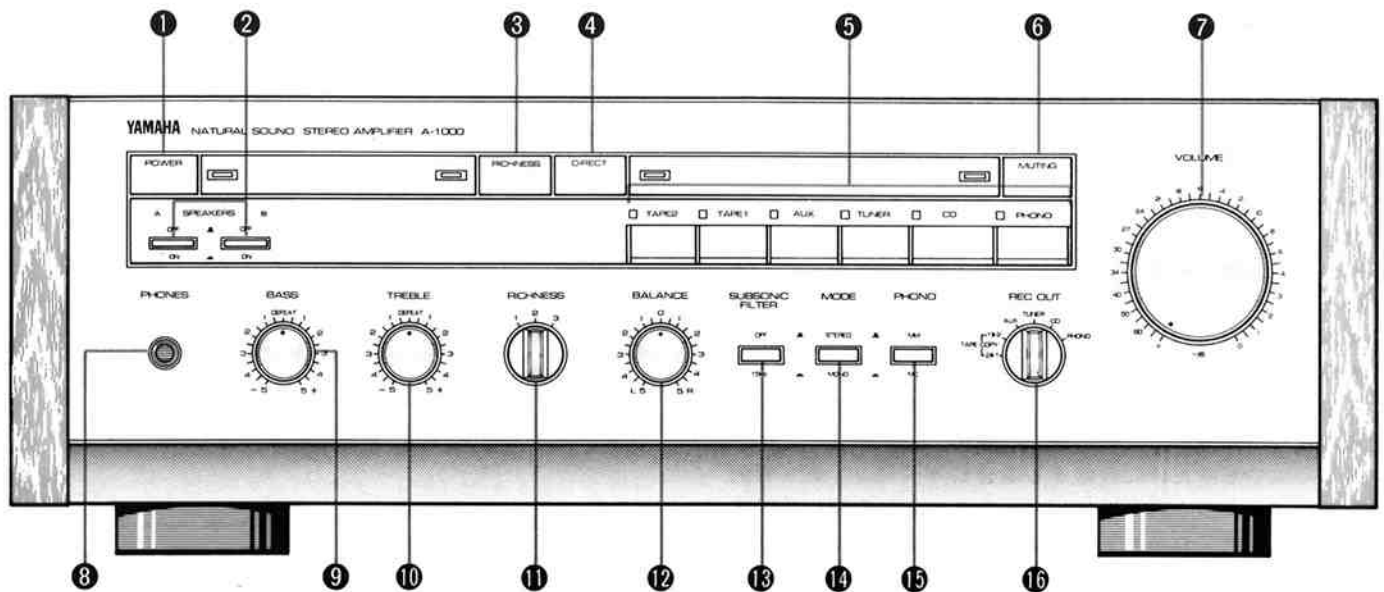
サウンドシンセサイザー、グラフィックイコライザー等を使用するときは、ACCESSORY端子に接続します。

ACCESSORY端子よりジャンパーピンを抜き取り、正しく接続してください。

なお、ACCESSORY端子を使用しないときは、ジャンパーピンは差し込んだままにしておきます。



# 各部の名称と機能



## ① POWERスイッチ

このスイッチを押すと電源が入り右のインジケーターが点灯します。もう一度押すと電源が切れます。

※電源を入れるときは、必ず VOLUME ツマミを最小の位置「∞」に回してください。

※電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働いているため音が出ません。

## ② SPEAKERSスイッチ

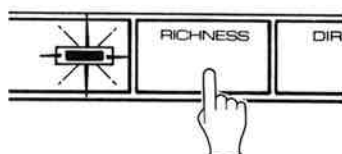
本機に接続されたスピーカーシステム(A・B)を選択するスイッチです。

Aのボタンを押すとA端子に接続されたスピーカーシステムから、Bのボタンを押すとB端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。

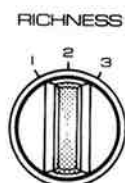
A・B両方のボタンを押すとA・B両方のスピーカーシステムから音が出ます。

## ③ RICHNESSスイッチ

このスイッチを押すと左のインジケーターが点灯し、接続されているスピーカーの低域周波数特性を約1オクターブ下までフラットに伸ばすことができます。①RICHNESSセクターを「1」、「2」又は「3」にセットすることで、使用しているスピーカーの特性を改善します。「1」はヤマハのNS-2000、「2」はNS-1000Mに最適です。



RICHNESSセクターで使用するスピーカーの低域周波数特性を選びます。



## ④ DIRECTスイッチ

このスイッチを押すと右のインジケーターが点灯し、BASS TREBLEのトーンコントロールがパスすることができます。

## ⑤ インプットセレクター

入力端子に接続されているプログラムソースを選択するスイッチです。お好みのプログラムのボタンを押すとインジケーターが選択されたプログラムを示します。

## ⑥ MUTINGスイッチ

このスイッチを押すと左のインジケーターが点灯し、VOLUMEつまみを回さずに音量を1/10にすることができます。レコードのかけ替えや一時的に音量を下げたいときに便利です。

※MUTINGスイッチをON ■して、VOLUMEつまみで音量を上げているとき、MUTINGスイッチをOFF ■しますと急に大きな音(10倍の音量)になり、スピーカーなどに悪影響を与えることがありますのでご注意ください。

## ⑦ VOLUMEつまみ

音量を調整するつまみで右に回す(時計方向)ほど音量が大きくなります。

※つまみを右に回したまま、電源スイッチを入れたり、レコード演奏を行ないますと、急に大きな音が出ますので常に左いっぱいの位置から徐々に音量を上げていくように習慣づけてください。

## ⑧ PHONESジャック

ヘッドホンに接続するジャックです。ヘッドホンだけでお聴きになりたいときは、スピーカーセレクトスイッチA・B両方のボタンをOFF ■にしてください。

### ⑨ <sup>バス</sup>BASSツマミ

低音域を調整するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。

### ⑩ <sup>トレブル</sup>TREBLEツマミ

高音域を調整するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

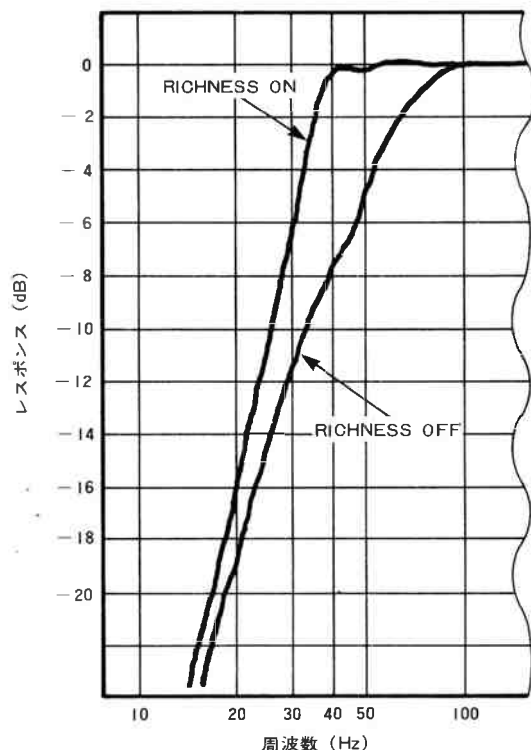
### ⑪ <sup>リッチネス</sup>RICHNESSセクター

このセクタースイッチには、「1」、「2」、「3」の3つのポジションがあります。「1」の位置ではヤマハのNS-2000が最適に、「2」の位置ではNS-1000Mが最適にオクターブ下までフラットになるようにセットされています。使用しているスピーカーの低域音圧レベルが-7~-8dBになる周波数が30Hz付近の場合は「1」、40Hz付近の場合は「2」、50Hz付近の場合は「3」の位置にセットしてください。

#### ◎RICHNESS推奨ポジション

1. ヤマハNS-2000 (ダイヤトーンDS-505 etc.)
2. ヤマハNS-1000M, MS 1000Ma (ダイヤトーンDS-503, ONKYO MONITOR100, パイオニアS-933, 955III etc.)
3. (ビクターZero100, Zero1000 etc.)

NS-1000MのRICHNESSスイッチ ON-OFFの比較グラフ





### ⑫ <sup>バランス</sup>BALANCEツマミ

スピーカーシステムの配置や、家具などの影響によって左右スピーカーの音の大きさが異なる場合があります。このようにとき、このツマミを回して左右の音量バランスを調整してください。



### ⑬ <sup>サブソニック</sup><sup>フィルター</sup>SUBSONIC FILTER

通常は音楽再生に必要な15Hz以下の低域をカットするスイッチです。レコード盤のそりなどによるスピーカーのコーン紙のフラつきを防止できます。

### ⑭ <sup>モード</sup>MODEスイッチ

プログラムソースのモードを選択します。STEREO  では通常ステレオで再生され、MONO  ではモノラルで再生されます。

### ⑮ <sup>フォノ</sup>PHONOスイッチ

ご使用されるカートリッジにより切り換えてください。MM型カートリッジはMM  ポジションで、MC型カートリッジはMC  ポジションでご使用ください。  
※カートリッジの出力電圧は機種によって異なりますのでカートリッジの取扱説明書をご参照ください。

### ⑯ <sup>レック</sup><sup>アウト</sup>REC OUTセクタースイッチ

接続されているテープデッキに録音用の信号を選択して送り出すスイッチです。インプットセクターに関係なく接続されているプログラムソースを選択して録音することができます。たとえば、レコードを聴きながらREC OUTスイッチをTUNERにしてFM放送をエアチェックすることが可能です。また、テープのダビングもこのスイッチを使用します。

録音中あるいはダビング中、トーンコントロール、BALANCE、VOLUME、SUBSONIC FILTER、MODE、MUTING、RICHNESSなどを操作しても録音には影響しません。

# 操作のしかた

電源を入れる前に接続をもう一度確認しましょう。

●接続コードのⒶ、Ⓑ及びスピーカーシステムとアンプの極性(+、-)は逆になっていませんか。

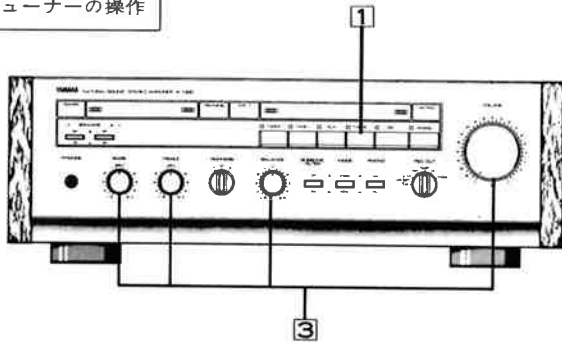
●接続コードはしっかり接続されていますか。

また、演奏を始める前は、アンプのボリュームは最小にしておきましょう。

## ■AM/FM放送の受信

- 1.電源を入れ、インプットセレクターの“TUNER”ボタンを押します。
- 2.チューナーを操作し、放送を受信します。
- 3.VOLUME、トーンコントロール、BALANCEなどで音量や音質を調整してください。

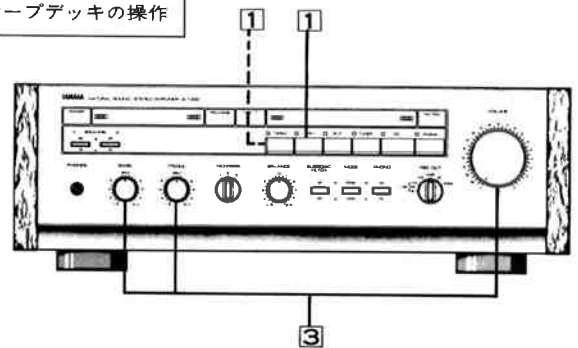
②チューナーの操作



## ■テープデッキの再生

- 1.インプットセレクターの“TAPE 1”または“TAPE 2”ボタン(再生したいテープデッキに合わせる)を押します。
- 2.テープデッキを再生状態にします。
- 3.アンプで音量や音質を調整します。

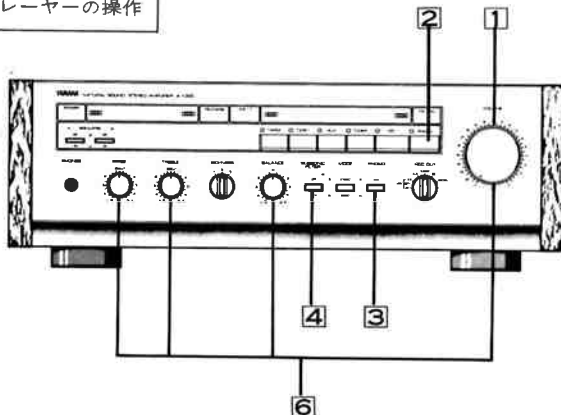
②テープデッキの操作



## ■レコードの演奏

- 1.レコード演奏を始める前(レコードに針を降ろすとき)と、演奏終了時(針を上げるとき)には、一度音量を最小にしてください。
- 2.インプットセレクターの“PHONO”ボタンを押します。
- 3.PHONOスイッチをご使用のカートリッジに合わせます。
- 4.ソリのあるレコード盤を演奏すると超低域雑音が発生し低音用のスピーカーを不要振動させ、音質に悪影響を与えます。このとき、SUBSONIC FILTERスイッチを押すと、超低域雑音を除去できます。
- 5.プレーヤーを操作し、レコードの演奏を始めます。
- 6.アンプで音量や音質を調整してください。

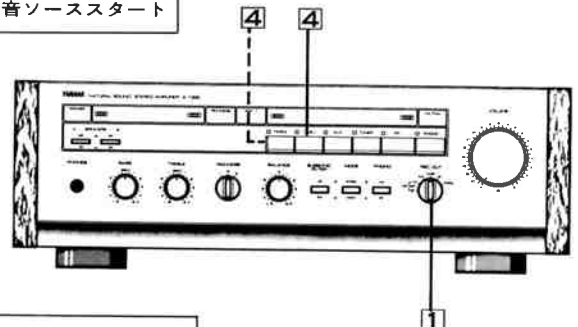
⑤プレーヤーの操作



## ■録音のしかた

- 1.REC OUTセレクターで録音したいプログラムソースを選びます。
- 2.録音するプログラムソースをスタートさせます。
- 3.テープデッキを操作し、録音を始めます。(同時に2台のテープデッキに録音できます。)
- 4.録音内容をモニター(録音している音を聞く)するときは、インプットセレクターの“TAPE 1”または“TAPE 2”(録音しているテープデッキに合わせる)ボタンを押しますと、録音内容のモニターができます。

②録音ソーススタート



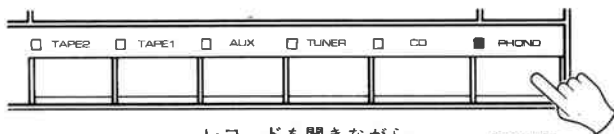
③テープデッキを操作し録音を始める。



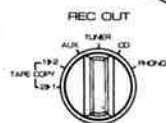
## ■ダブルアクションについて

インプットセレクターで選んだプログラムソースを聞きながら、別のプログラムソースをREC OUTセレクターで選んで録音することができます。……ダブルアクション  
ダブルアクションの主な例は下表のようになります。

インプット セレクター	REC OUT セレクター	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながらレコードを録音できます。



レコードを聞きながら、  
FM放送を録音する場合



"TUNER"にする

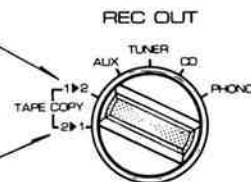
## ■テープのダビングについて

テープデッキが2台ありますと、テープからテープへダビングすることができます。

リアパネルTAPE 1端子に接続しているテープデッキ1から、TAPE 2端子のテープデッキ2へダビングする場合は、  
1. REC OUTセレクターを"TAPE COPY 1 ▶ 2"にします。  
2. テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。

テープデッキ2から1へも同様にして、REC OUTセレクターを"TAPE COPY 2 ▶ 1"にし、上記2を逆の状態にするとダビングすることができます。

テープデッキ1からテープ  
デッキ2へダビングする場合



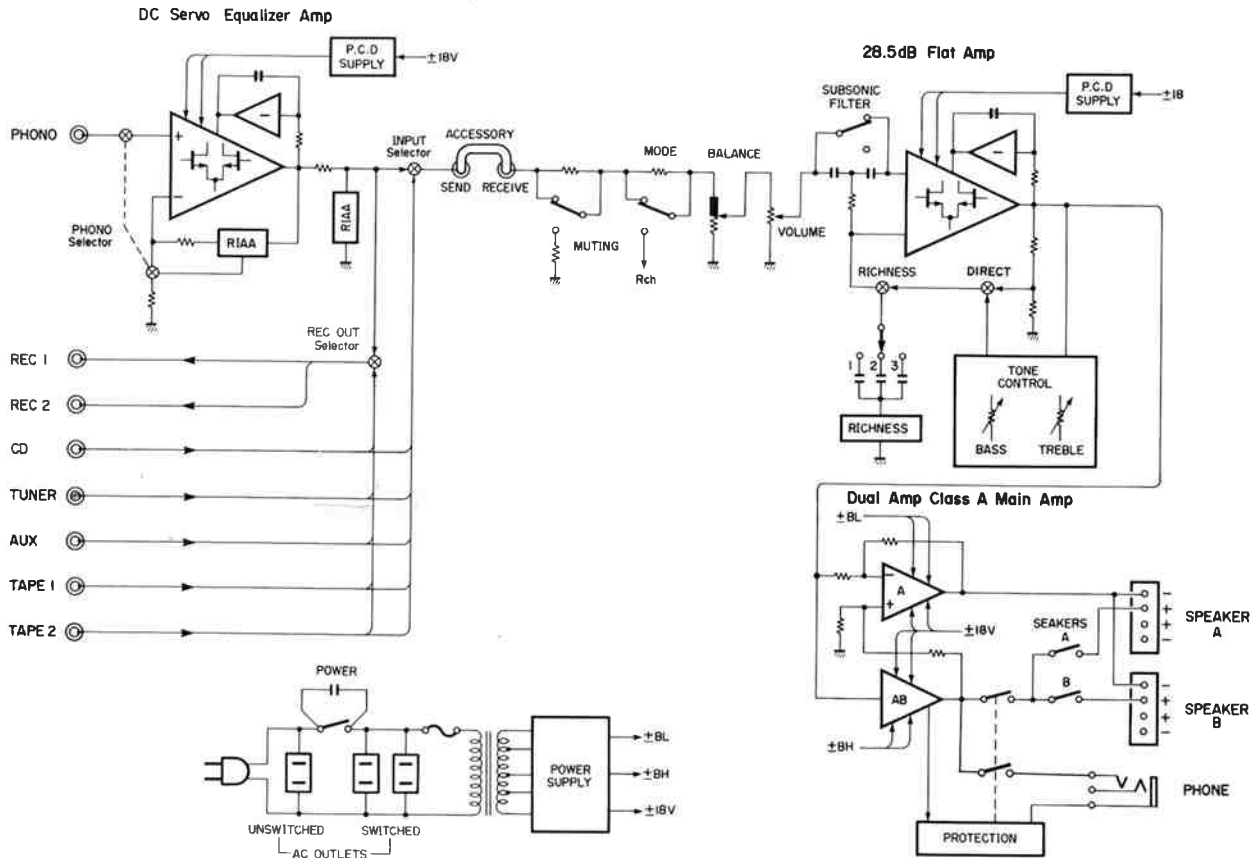
テープデッキ2からテープ  
デッキ1へダビングする場合

録音中あるいはダビング中、トーンコントロール、  
BALANCE, VOLUME, SUBSONIC FILTER,  
MODE, MUTING, RICHNESSなどを操作しても、  
録音には影響しません。

この他にも、インプットセレクターとREC OUTセレクターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に楽しむことができます。

# ブロックダイアグラム/参考仕様

## ■ブロックダイアグラム



## ■参考仕様

### 定格出力

20Hz~20kHz, 0.003%, 8Ω	100W+100W
0.003%, 6Ω	120W+120W
0.005%, 4Ω	140W+140W
1kHz, 0.002%, 8Ω	105W+105W
6Ω	125W+125W
4Ω	145W+145W

パワーバンド幅(0.03%, 50W/8Ω).....10Hz~100kHz  
 ダンピングファクター(1kHz, 8Ω).....100以上  
 入力感度/インピーダンス

PHONO 1 MC	160μV/220Ω
MM	2.5mV/47kΩ 220pF

AUX, TAPE, TUNER, CD.....150mV/47kΩ  
 最大許容入力(0.02%, 1kHz)

PHONO MC/MM.....10mV/165mV

ヘッドホン出力/出力インピーダンス  
 (0.003%).....0.67/8Ω, 6.58V/100Ω

周波数特性(DIRECT ON)  
 AUX, TAPE, TUNER, CD..... $\pm 0.5$ dB(20Hz~20kHz)

RIAA偏差

PHONO MM/MC(10Hz~100kHz)	±0.5dB
PHONO MM(20Hz~20kHz)	±0.2dB
MC(20Hz~20kHz)	±0.3dB

全高調波歪率(20Hz~20kHz)  
 PHONO MC → REC OUT (3V).....0.01%  
 MM → REC OUT (3V).....0.003%  
 AUX, TAPE, TUNER, CD → SP OUT (50W, 8Ω) 0.003%

混変調歪率  
 AUX, TAPE, TUNER, CD (定格出力/8Ω).....0.002%  
 (1W/8Ω).....0.002%

### SN比(IHF A ネットワーク, 入力ショート)

PHONO MC/MM	72dB(250μV)/86dB(2.5mV)
AUX, TAPE, TUNER, CD	108dB

### 入力換算雑音(IHF A ネットワーク)

PHONO MC/MM.....-142dBV/-138dBV

残留ノイズ(IHF A ネットワーク, DIRECT ON).....100μV

### チャンネルセパレーション(1kHz, Vol. -30dB)

PHONO MC/MM(ショート).....70dB

AUX, TAPE, TUNER, CD(ショート).....70dB

### トーンコントロール

BASS (ターンオーバー周波数350Hz).....20Hz±10dB

TREBLE (ターンオーバー周波数3.5kHz).....20kHz±10dB

### RICHNESS

1.....30Hzにて+7.5dB

2.....40Hzにて+7.5dB

3.....50Hzにて+7.5dB

### フィルター特性

SUBSONIC FILTER.....15Hz, -12dB/oct

オーディオミュート.....-20dB

定格電源電圧、周波数.....AC100V, 50/60Hz

定格消費電力.....305W

### ACアウトレット

SWITCHED.....Total 200W max, 2個

UNSWITCHED.....200W max, 1個

外形寸法(W×H×D).....473×159×434mm

重量.....16.5kg

※参考仕様及び外観は改良のため、予告なく変更されることがあります。

## 故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
インプットセレクターを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERS スイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
	VOLUME ツマミが絞られている。	VOLUME ツマミを右(時計方向)に回してください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかり差し込みなおしてください。
	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	BALANCE ツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCE ツマミを正しく調整してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)が合っていない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかり差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線がはずれている。	アース線をリアパネル GND 端子に接続してください。
	MCカートリッジの近くに電源コードがある。	電源コードは、カートリッジやPHONO出力コードの近くには配線しないようにしてください。
レコード再生時、VOLUME をあげると“ワーン”という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)
MCカートリッジの音が小さい。	PHONO スイッチがMMの状態になっています。	PHONO スイッチをMCにセットしてください。

# サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

## ■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

この期間は通商産業省の指導によるものです。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(10ページ)をお読みになつてください。意外と故障でない場合があるものです。

## ■持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

修理受付および修理品お預り窓口

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7(高松店内) TEL (0878) 51-7777, 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (日本楽器名古屋流通センター) TEL (052) 652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区紙園町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 36-0249
浜松電音サービスセンター	〒430 浜松市東伊場2-13-12 TEL (0534) 56-9211

## 本 社

営業技術課電音サービスセンター 〒430 浜松市中沢町10-1  
TEL (0534) 65-1111

## ■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL(03)572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL(03)572-3131
横浜店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL(045)311-1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館8.9F TEL(06)251-1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL(06)211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL(078)321-1191
高松店	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL(0878)51-7777
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL(093)531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL(011)512-6113
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL(0222)22-6141
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL(082)244-3743
浜松支店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL(0534)54-4116
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL(0534)54-4327
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。